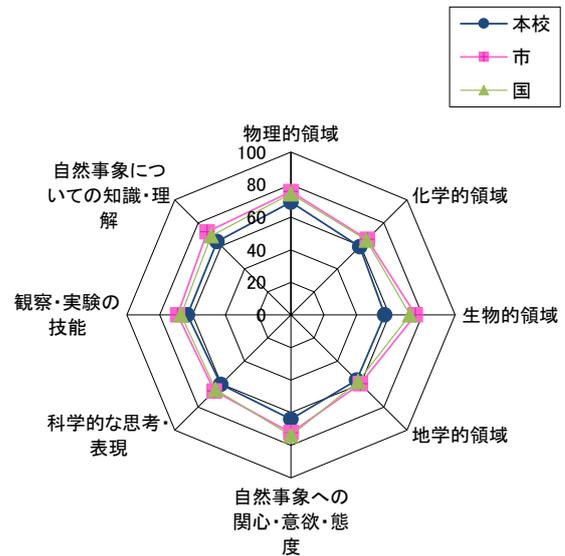


# 宇都宮市立鬼怒中学校第3学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物理的領域	69.3	75.7	74.4
	化学的領域	59.3	65.8	65.0
	生物的領域	57.1	75.9	72.5
	地学的領域	56.5	59.8	57.8
観点	自然事象への関心・意欲・態度	64.0	72.3	74.0
	科学的な思考・表現	60.4	66.0	64.9
	観察・実験の技能	63.1	69.1	67.0
	自然事象についての知識・理解	63.6	72.1	68.7



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物理的領域	○光の進み方を説明する問題では全国平均より上回ることから、知識が身に付いている。 ●光の進み方が直線で示してあるものについては、学習した知識を活用して答えを出せるが、実際の文字についてはそれを応用できない傾向がある。	・基礎的な内容についてだけでなく、日常生活の中での具体例をあげて理解を深める指導の機会を増やす。
化学的領域	○ガスバーナーの使い方については74%という高い正答率から実験で度々ガスバーナーを使用して、十分理解していると思われる。 ●実験の条件を考える問題で正答率が低く、未回答の生徒も18%と高い。 ●モデルを使って考えを説明する問題で未回答が、思考を避ける傾向が見られる。	・実験についての説明で、操作や確かめがどのような条件と関係しているのか伝える。 ・思考することを習慣化し、言葉で表現することに対する抵抗を減らす。
生物的領域	○軟体動物について知識を活用できた。 ○刺激と反応については全国と比べてもほぼ同程度の正答率であった。 ●植物の実験についての問いで、無回答が全体の14.4%にのぼっている。 ●質量パーセント濃度に対する理解度が低い。	・質量パーセント濃度の理解が低いため単位の求め方でつまづき、答えるまでに及ばない生徒が多い。授業や家庭学習として繰り返し計算練習する。
地学的領域	○気象に関しては全国・栃木県どちらもやや上回る正答率を得ている。学習内容をおおむね理解できている。 ●思考・発展的な内容を苦手としている。(全般的に)	・学習した知識の定着だけでなく、発展的な内容についても授業で取り上げる機会を増やす。